

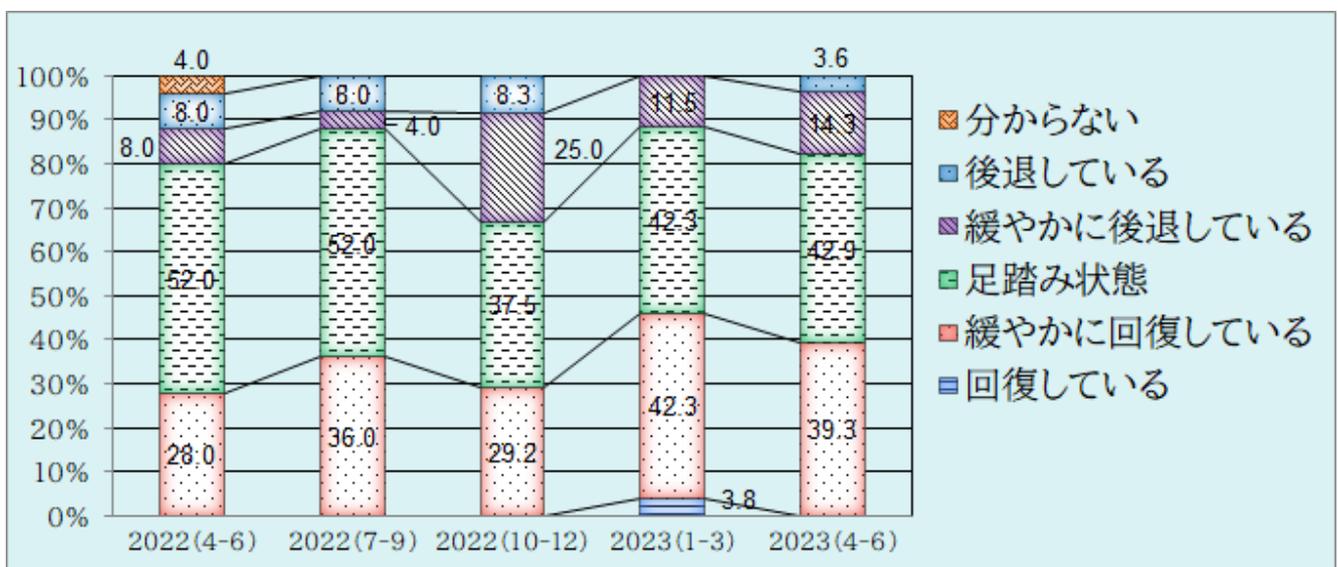
景気動向調査の概要【2023年4～6月】

約4割が回復基調と回答するが、本格的な回復に向けて一進一退の状況が続く

景気の現況は、「足踏み状態」(42.9%)が最も多く、次いで「緩やかに回復している」(39.3%)との回答が続く一方で、「緩やかに後退している」(14.3%)が 2.8 ポイント微増したほか、「後退している」(3.6%)との回答も見られる結果となった。今期(2023年4～6月期)の業況判断 DI は△7.2 と前期比 22.6 ポイントの悪化となったが、来期(2023年7～9月期)の見通しは DI が 14.3 と前期比で△4.9 ポイントの微減に止まるなど、景気全体は持ち直し傾向ではあるものの、本格的な回復に向けて一進一退の状況が続いている。

5月に新型コロナは5類へ移行され、経済活動や社会生活の正常化による人出の増加から、飲食業などでは来店客の増加で売上が回復しているほか、観光・旅行業ではビジネス客や旅行者(インバウンド含む)の回復から個人旅行や宿泊需要などで好調が続いている。

一方、電気代を含むエネルギー価格の高騰や食品など生活必需品の値上げなど、物価高の影響による個人消費の停滞が懸念されることに加え、長引く人手不足によるビジネス機会の損失、ウクライナ情勢や海外経済の減速に対する不安など、景気回復の足枷となるマイナス要素が顕在しており、今後とも予断を許さない状況が続くと思われる。



前期との比較と来期の見通し		2022年4-6月期	2022年7-9月期	2022年10-12月期	2023年1-3月期	2023年4-6月期	2023年7-9月期
前期比	好転	28.0	28.0	33.3	34.6	32.1	-
	不変	40.0	36.0	37.5	46.2	28.6	-
	悪化	32.0	36.0	29.2	19.2	39.3	-
	DI	△4.0	△8.0	4.1	15.4	△7.2	-
来期の見通し	好転	20.0	24.0	40.0	25.0	26.9	25.0
	不変	60.0	56.0	40.0	33.3	65.4	64.3
	悪化	20.0	20.0	20.0	41.7	7.7	10.7
	DI	0.0	4.0	20.0	△16.7	19.2	14.3

<実施要領>

- 調査期間 2023年6月23日～7月4日
- 調査対象 当所景気モニター企業 30社
- 調査方法 調査票を郵送しFAXおよび Google Form で回収
- 有効回答数 28社(回収率 93.3%)